

平成 22 年第 4 回定例会-2(第 6 日 12/3)

●議長(浅野正明) 長谷川大議員。(拍手)

[長谷川大議員登壇]

●長谷川大議員 どうもこんにちは。きのう、11月3日に頼んだ携帯電話、ギャラクシー一っていうのが届きまして、それをずうっとゆうべいじっていたら、きょう質問だつてことを忘れていました。済みません。なので、ちょっと頭の中が整理できていない中で質問するので、ここの議会にはまだ反問権はないんですけど、ちょっと、あんたの質問おかしいよってとこがあったら、ちょっと聞いてみてください。

通告をしてあるのが入札の事務作業手順ということなんですけども、今回、エアコンの小中学校の導入の話が前回の議会からずっと動いているんですけども、そのことについていろいろ調べていきますと、わけがわからないんですよ。みんなで、それはあっち、それはあっち、それはあっちと言って、だれが決めてんのという話をすると、えっ、それはあっちですという話になって、決断を下すということをだれがしているのかというのがわからなかったんですね。少なくとも、エアコンを小中学校に入れようねと決めたのは市長なんですよね。お金がつけられそうだと決めたのが財務部長なんですけども、その後の手順がもう何が何だかわからない。きのうの段階でも、まだ僕も調べ切っていないから、一つ一つ事例を挙げるので、それを採用しないで今回の計画が進んだということについてのお話を聞きたいと思うんですね。

川崎ですとか横浜、小中学校の空調の整備事業はPFIでやっています。ああ、なるほど、PFIか。それは一理あるなと思ったんですよ。なので、PFIを今回導入しようとしなかった理由を1つ聞きたいのと、それから、過去の市内の小中学校に空調を入れる、事務室ですとか保健室ですとか職員室ですとかというところに入ってるんですけども、それらの空調整備は17年以降リースでやってるものも結構あるんですよ。それも、何で今回はリースでやらないのと言ったら、いやいや、それはそれはそれはとみんなで、それはそれはと言って、だれがリースはだめよというのを判断したかということが結局聞けなかった。

それからもう1つは、事務室に入っているのはどちらかというと物品購入でやっているんですね、工事じゃなくて。町の電気屋さんからエアコンを入れているんですよ。僕も最初の勉強会のときに聞いてみたんですけども、見ばえは悪くても、ひよっとすると、電気屋さんで買ったエアコンを2つか4つかという感じでつければ、それはそれで

いいんじゃないのと思ったんですよ。だけど、そういうことも採用されてないんです。だから、それを採用しなかったような理由も伺いたい。

だから、今言ったように、PFI だとかリースだとか物品購入だとかということを採用しなかったというようなことを市長が決断をして、市長部局のほうから教育委員会のほうに投げられているんですね、話は。教育長も、この間、議案質疑のときの答弁で、いや前から考えていたんだよ、それを市長が決断したからやることになったんだよと、それはそれでいい。だとしたら、教育委員会事務局のほうできっちりとした仕事をして、今日に至っているというところの説明をしていただきたいというのが1問です、きょうのね。

それから、子育て支援についてです。

保育のあり方検討委員会の答申を行いますというファクスが、おとこの晩ですか、流れてきて、きょうその儀式があったようなんですけれども、我々の手元にも書類が届きました。まだ読んでません、当然なんですけど。

この保育のあり方検討委員会の報告を踏まえて、それから、今のほうで子育ての新システムの話がずっと上がってきているんですけれども、これを踏まえて、船橋市の子育て支援全般をこれからどうやって考えていくのかということについて、総論的にまずお話しをしていただきたいというふうに思います。

以上が1問です。

[教育次長登壇]

●教育次長(西崎勝則) それでは、長谷川議員のご質問にお答え申し上げます。

大きく2つございました。まず1点目は、PFI方式を入れなかったのはなぜかということでございますが、このPFI方式につきましては、川崎市から情報として聞いておりましたが、このPFI方式を導入するためには、多くの段階を経ていかなければならないなど、事前の検討に時間を要します。今回、早期に整備することを目指しておりますので、設計委託をし、直接施行の方向で整備していくものでございます。

続きまして、物品購入やリースではなく、工事とした理由は何かというふうなことになろうかと思いますが、今回の整備につきましては大変大規模でございます。この整備につきましては、空調機のみではなく、受変電設備の改修やガス配管等の基盤整備が必要となります。また、設計の中で、基盤整備を含め、周辺環境、イニシャルコス

ト、ランニングコスト、環境性能等の調査、設置場所や制御方法の検討が必要となります。これらを検討し、また文部科学省の補助及び起債を活用できることから、工事を予定しているところでございます。

以上でございます。

[子育て支援部長登壇]

●子育て支援部長(川名部芳秋) 保育のあり方検討委員会の提言書、また今後の国の動向を踏まえまして、船橋市の子育て支援策の総論的なというご質問ですが、保育のあり方検討委員会の提言書では、保育所、待機児童への緊急の対応と、市が提案した今後新たに展開する子育て支援施策の適切な実施を求められております。また、あわせて今後の施策を展開するためには財源と人材の確保が必要であり、公立保育所の民営化はやむを得ないとの判断が示されました。

市では、民営化の基本計画を作成するとともに、新たな地域の子育て支援については、庁内でプロジェクトチームを立ち上げ、さまざまな地域支援との連携を含め、検討を進めてまいります。

特に、待機児童対策につきましては、子ども・子育て新システムの方向性や国における待機児童解消先取りプロジェクトの動向も視野に入れ、保育園だけではなく、幼稚園や認可外保育施設等にもご協力をいただきながら、広域的な待機児童対策を検討してまいります。

以上でございます。

[長谷川大議員登壇]

●長谷川大議員 ご答弁をありがとうございました。

市長には聞きたくないんだけど、どうしようかな。ちょっと市長に1つだけ聞いていいですか。エアコンやると言ったじゃないですか。急げという言葉がついたかどうかなんですよ。今の答弁の中で、PFIは時間を要すると言っているんですね。PFIの検討ぐらいはしたって僕はいいいんじゃないのと思うんですけど、そういうことさえも検討もせずに、とにかく早くやれという指示をお出しになったのかどうか。それを1つだけ、申しわけないんですけど伺いたいですね。

要するに、市長がエアコンを入れると言っても、きっちり丁寧な仕事をして、いろいろなものを比較検討して、効率のよい財政運営をするために、お金の使い方もちゃんと考えて決めろよというのがやれと言った裏側にはちゃんとあったはずだと思うんです。それなのに、こっちもこっちの一部もそうなんですけど、いや、市長が言ったからすぐやらなきゃいけないです、早くやらなきゃいけないんです、とにかくやらなきゃいけないんですということしか伝わってこないんですよ。丁寧に仕事をするだとか、いろんなことを比較検討して他市に負けないような空調の入れ方をしろということがどこにもないんですよ。だから、そのとこだけ、申しわけないなんですけど、できれば市長に答弁していただきたい。全部市長のせいにはしているから、しょうがないんです。市長に聞くしかないですよ。済みません。

それから、子育て支援のほうです。プロジェクトチームを立ち上げという話がありましたけど、プロジェクトチームはどんな構成になるか、それをまず聞かないと次の質問に行けないので、ちょっとそれをお答えください。

以上です。

[市長登壇]

●市長(藤代孝七) 長谷川議員のご質問でございます。

この空調に関しましては、先般、議案質疑の中で教育長がお話をいたしたとおりでございまして、その後と言いますか、財政部長とお話をしているときに、「財政部長、これだけの暑さだから大変難しいから、何とかならないのか」「大丈夫です」ということの中で、それではということで私も決断をいたしたわけではありますが、それには、補助金とそれから起債、これが認められるようにしたいということでスタートしたことでございます。

ですから、その節に、今から始めませんと、来年の夏、早くても流用で先に設計をやっていきますと何とか先に間に合うかどうかというようなこともございましたけども、何とかこの12月補正でやりましてといいましても、やはり来年の夏までには無理かなというふうには思っておりますけども、そういった話でございます。

[子育て支援部長登壇]

●子育て支援部長(川名部芳秋) プロジェクトチームはどういう構成、内容かということでございますけど、子育て支援全体ということであれば、当然、子育て支援部を中心に、児童家庭課を中心にしなきゃいけないんですけど、当然、子育て支援部の中の

児童ホームを持っている児童育成課とか、あと健康増進課の1歳6カ月健診、そういう保健師さんの方々にもご協力をいただきながら、そういう体制の中で全体的に子育て支援を見据える、そういう組織を立ち上げていきたいと考えております。

以上でございます。

[長谷川大議員登壇]

●長谷川大議員 ありがとうございます。

とにかく、私自身が考えている教育委員会の仕事というのは、非常に不愉快になるようなでたらめぶりが随所に見られましたので、仕事はもうちょっと丁寧にやっていただきたいと思います。

それから、大規模な工事になるとかいろんな話、これもまたいろんな方にお話を聞いた中で情報が錯綜しているんですけども、市船の空調工事は補助金が見つからないんですよ。それで、起債と市費でやるんだから全部市費になるわけですけども、この市船だけでも別のシステムで考えたのかという話をしたら、それもしていなかったんですよ。結局、全部一緒にやって、何もかもがごちゃまぜで、事細かなお金の節約をしていこうなんて話はどこにもない話でした。

それはそれでいいんですけども、ちょっと子育て支援の観点から伺います。(「いいことはないよ。まずいんじゃないの」と呼ぶ者あり)いやいや、もうどうにもならないんですよ。(笑声)話していて頭に来るだけだから、話をする対象でもない。だから、時間がないから、次に行きます。

子育て支援の観点からでいきますけれども、この間、議案質疑のときにもちょっと伺ったんですけど、利用料の話です。やっぱり、県立高校、もう1回検証してみました。調べてみたら、県立高校の空調というのは全部やっぱり保護者負担なんですよ。それで、電気代も払っている、保護者が。(発言する者あり)市立船橋高校の保護者だけが市民の税金でクーラーの利用ができて、船橋市在住の県立高校の保護者は負担をしなきゃならない。(発言する者あり)今いろんなことを言っている人がいますけれども、とりあえず現実には現実なんだから、県が出せないんだから。市立高校の保護者はその恩恵にあずかっているわけですよ。

だから、まず1つは、だれに聞くのかわかんないんですけど、子育て支援の観点から、県立高等学校保護者の空調の利用料、それから、小中学校も義務教だからオーケーなんだってことをこの間おっしゃいましたけど、義務教だからという、それはそ

れでわかりました。だったら、私立の小中に行っている保護者の空調の電気代、それから、保育園に聞いたら、保育園はもう入ってるんですね、どっちかっというと。だからこれで、保育園が入っていて、公立の小中が入って、県立高校も入っている、市立高校も入っている。そうすると幼稚園だけが取り残されちゃうんですよ。そうすると幼稚園に対するプレッシャーがガンガンガンガンかかってくる、保護者からね。そうすると入れざるを得ない。入れるところは、もう自力でやってもらうしかない、私立だから。やってもらうけれども、これも子育て支援の観点で、その電気代ぐらいは保護者のために面倒見てやったらどうだというふうに思うんです。それについての考え方、だれが答弁するんだか知らないけれども、答弁してというのが1つ。

それから、僕は平成7年に初当選なんですけども、そのとき子供が3歳だったんですよ。今、大学1年になりました。そのときからずっと、子育て支援、子育て支援と言わせていただいていたんですけども、僕の子育て支援についての質問の会議録って全部読んでもらっているかなと聞きたいんですけど。

先ほどの答弁の中で、子育て支援は子育て支援部の何だか部何だか課を中心にとかと言っていたんですけど、子育て支援って庁内全部なんですよ。前から言っているんですけど、ベビーカーを押すための道路の整備から始まって、子供たちが大きくなってきたら今度は住居の問題も出てくる。そういうことも含めてやれというのをずっと昔から言っているのに、結局、「そういうのをばんそうこう行政っていうんだよ」と呼ぶ者あり)そう。結局こうやってちっちゃくちっちゃくなってきて、わけのわかんないことをやっているの、もう1回ここでできたら宣言してもらいたい、全庁的にプロジェクトチームをつくりまよというようなことを。「市長が答えろ」と呼ぶ者あり)いや、市長じゃ悪いから。「恐れ多いか」と叫ぶ者あり)いや、市長が言うと、今、この役所は、市長が言ったんだからと言って何でもすっ飛ばして、細かい丁寧な仕事をしないで何でもやるようになった。だから、せいぜい健康福祉局長ぐらいで結構ですので、お答えいただきたいと思います。(予定時間終了2分前の合図)

[教育次長登壇]

●教育次長(西崎勝則) 長谷川議員の第3問にお答えいたします。

私立の幼稚園、あるいは小中学校でよろしいんでしょうか——に通っている保護者への助成ということでよろしいんでしょうか、そういうご質問で——はい。お答えいたします。

私立幼稚園につきましては、それぞれの幼稚園がおのこの教育理念に基づき運営しております、エアコンにつきましても設置している園と設置していない園がございます。各幼稚園の運営方針によるものと受けとめているところでございます。

これらに通う使用料の助成ということでございますけれども、エアコンそのものは幼稚園がそれぞれ設置しているところでもございますので、そういった助成に対する考えは持っていないところでございます。

また、私立の小中学校に関してでございますけれども、私立の学校に通うということにつきましては、その学校の教育環境、教育理念や内容、かかる経費等を踏まえて、ご本人、ご家族が選択されているところでございますので、ご提案、お話がございましたような助成については、幼稚園同様に考えは持っていないところでございます。

以上でございます。

[健康福祉局長登壇]

●健康福祉局長(込山愛郎) 子育て支援についてお尋ねがございました。

議員ご指摘のとおり、子育て支援については、総合的な観点から、まさに全庁的に取り組まなきゃいけないというようなご指摘は全くもつともございまして、市におきましても、例えばあいプラン推進協議会などを設置いたしまして、まさに、先ほどご指摘いただいたような点も含めて、総合的な検討を進めさせていただいているところでございます。

先ほど、子育て部長からご答弁申し上げたのは、今後、提言いただきました例えば地域担当保育士等々のそういった新たな地域支援の部分、それについてどういった具体的な仕組みがつかれるか、今の既存の施策との重複等々も整理してどういったことができるかという検討をしたいと考えておりまして、その点については、やはり子育て支援部が中心にということでございます。ただ、いずれにしても、例えば待機児童対策、こちらは幼稚園さんのご協力等々をいただかなきゃいけないものもございまして、そういったことも含めて、教育委員会にもお願いしなきゃいけないこともございまして、まさに全庁的に検討を進めてまいりたいと思っております。

以上でございます。